

## 日々の備えが火災を防ぐ



春の火災予防運動は昭和2年3月7日に起きた北丹後地震で発生した大火の教訓を生かすために始まり、秋の火災予防運動は119番の日にちなみ制定されました。北丹後地震では、8,000戸以上の家屋が焼失したといわれています。私たちは、先人の残した教訓をしっかりと生かす必要があります。

は、たばこやたき火の不始末、こんろからの延焼、放火などが常に上位に。火が消えたことをきちんと確認する、家のそばに燃えやすい物を置かないなどの対策を。

また、住宅用火災警報器の設置は、火災の早期発見につながります。この警報器の設置は義務です。火災の延焼を防ぐためにもまだ設置していない家庭はすぐに設置を。取り付けた警報器は定期的に動作を確認してください。



### 小さくても頼りになる見張り番

消防庁が統計データを分析したところ、住宅用火災警報器を設置した場合、設置していない場合と比べ火災の死者は3分の2に。被害額や被害の面積は約半分に減っていることが分かりました。手に収まるような小さな機械ですが、私たちの生命や財産を守ってくれるんですよ。

消防局予防課  
比企 雄也

## 政策メモ

### いち早い前橋市の救急搬送時間

消防局警防課 ☎027-220-4513

急病人や負傷者の命を救うために重要なのは、119番通報からすぐに出動し、一刻も早く病院などの医療機関に搬送すること。素早く出動し医療機関と連絡することで、平成27年に医療機関に収容するまでにかかった時間は、全国平均が39.4分のところ本市は29.9分。平均より10分近く早く搬送しています。平成28年は30.0分でした。

医療機関へいち早く搬送することで、救命率の向上や後遺症の軽減を図れます。昨年の本市の出動件数

は、前年から888件増の1万5,953件と過去最高に。また、現場で救急救命士が低血糖の人にブドウ糖の点滴などの処置をしてから搬送するケースも増えています。救急車の台数も限られている中、出動件数の増加は現場や医療機関到着時間が遅くなる原因に。一刻を争う救急の現場では深刻な事態です。

救急車の適正利用は、搬送時間の短縮につながります。救急テレホンサービス(☎027-221-0099)なども有効に活用してください。

## 特集02

### 胸を張れ！前橋育英イレブン 全国高校サッカー堂々の準優勝



ピッチを駆け巡る黄色と黒のユニフォームとフェアプレー。2年ぶりとなる前橋育英高の決勝進出は、タイガー軍団を全国に強く印象付けました。

☎ 市政発信課 ☎ 027-898-6642



1月9日、埼玉スタジアム2002で第95回全国高校サッカー選手権大会の決勝戦が行われました。この試合で前橋育英高は青森山田高と対戦。前橋育英高は相手ゴールを果敢に攻めましたが、ゴールネットを揺らすことはできませんでしたが、堂々の準優勝となりました。

前橋テルサでは、同試合のパブリックビューイングを実施。多くの市民が、プレーする選手たちに熱い声援を送りました。

1月17日には、選手と山田耕介監督らが市役所を訪問。山本市長に準優勝を報告しました。

